南アジアにおける生態環境と文化適応に関する研究

Nara Women's University

人文科学系・人文社会学領域　**浅田　晴久**　准教授　ASADA Haruhisa　博士（地域研究）（京都大学）

■研究キーワード　インド / バングラデシュ / モンスーン / 気候変動 / 洪水 / 大気汚染 / 稲作 / 土地利用 / カースト / 民族

■主な所属学会　日本地理学会 / 人文地理学会 / 日本地球惑星科学連合 / 東京地学協会/ 日本南アジア学会

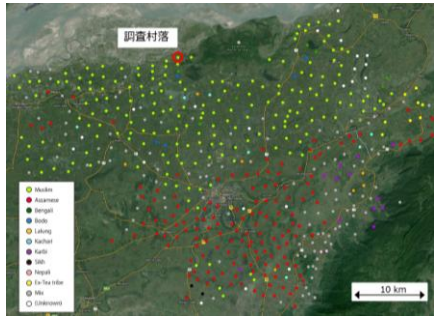
■研究者総覧　https://koto10.nara-wu.ac.jp/profile/ja.be231fae407143ad520e17560c007669.html

研究者総覧

研究概要

我々は自然環境とどのように付き合ってきたのか、どのような利用方法が可能なのか、今後どのように関わっていくべきかといった問題意識を念頭に、南アジア、中でもインド北東部とバングラデシュにまたがるブラマプトラ川流域を中心にフィールドワークを続けています。下流部のベンガルデルタから、中流域アッサム州の氾濫原、上流域のヒマラヤ山地まで、流域内には民族、カースト、宗教が異なるさまざまな集団が暮らしています。それぞれの集団が、洪水や渇水といった自然環境の変化にいかなる技術を用いて適応し、ときに改変し、ときに影響を被って生活しているのか、統計分析、資料調査、聞き取り調査などを組み合わせて明らかにすることが主な目標です。同じ時代に自分たちとは異なる技法や価値観で自然と対峙している人々から謙虚に学ぶことで、日本に暮らす我々がどのように自然観を改めるべきか、個人や社会のオルタナティブな在り方を考えるヒントを探ります。

住民に聞き取り調査を行う



宗教・カーストに基づく村落分布図

アピールポイント

1. ローカルな環境の成り立ちから、住民の生業、社会の構造、固有の文化まで、すべてを分析対象としています。理系の研究では自然環境の分析に終始し、文系の研究では社会や文化の解釈にとどまってしまいがちですが、理学部出身で文学部で教える者として、環境の変化や空間分布が、地域社会の構造や住民の行動原理にどのような影響を与えているのかということに関心があります。環境問題とは、自然と社会の双方に関わる現象であり、それを分析して解決法を提案するために、理系と文系の両分野の知識を活用します。

2. インド北東部の地域研究をパイオニアとして進めています。中国を抜いて人口世界一となり経済成長が著しいインドですが、アッサム州を中心とする7州から構成される北東部はこれまで、経済成長から取り残されてきた地域でした。そもそもこの地域は、インド本土とは住民構成、植民地時代の歴史、地理的環境が大きく異なっているにも関わらず、現地調査がほとんど行われていませんでした。2004年から現地で調査を開始し、2007年から2011年までは現地の大学にも在籍して、研究者とのネットワークを構築してきました。住民の声に耳を傾けながら、地域社会が抱える問題を調べています。

3. 専門は地理学ですが、他分野の研究者とも積極的に連携しています。たとえば、経済史の研究者とは、インドの事例と、ユーラシア大陸の東部・中部の経済発展経路の事例について比較を行いました。政治学の研究者とは、冷静終結後の国境線の変化が地域の政情不安定化を引き起こしたかどうかについて議論しました。文化人類学の研究者とは、バングラデシュの女性の行動様式の変化について現地で調査を行いました。フィールドワークで得られた事例を、他分野の視点から再解釈することで、新たな研究テーマにつながります。